JPX PRIME

JPX-NIKKEI 400

ＡＤＥＫＡの事業と成長戦略

2024年8月23日

【証券コード 4401】

ADEKA
Add Goodness

目次

1. ＡＤＥＫＡグループについて
2. ＡＤＥＫＡグループの業績
3. ＡＤＥＫＡグループの経営戦略
4. 株主還元
5. ご参考
   - 2025年３月期 第１四半期決算概要
   - サステナビリティ優先課題の取組み

1. ＡＤＥＫＡグループについて

企業概要

経営理念

新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す

世界とともに生きる

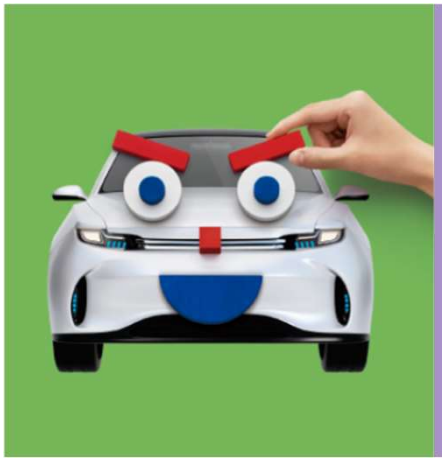
代表取締役社長 兼 社長執行役員
城詰 秀尊

会社名	株式会社ＡＤＥＫＡ	資本金	230億4,814万円
証券コード	4401	発行済み株式数	103,768,142株
本社	東京都荒川区	従業員数	(連)5,512名/(単)1,815名
創立	1917年（大正6年）	連結売上高	3,997億円

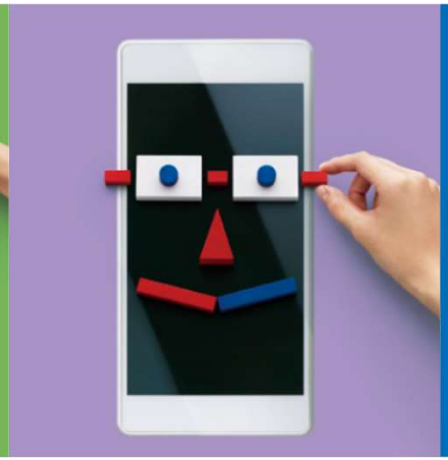
* 2024年3月末時点

コーポレートスローガン

Add Goodness すべてのものは、今より良くできる。

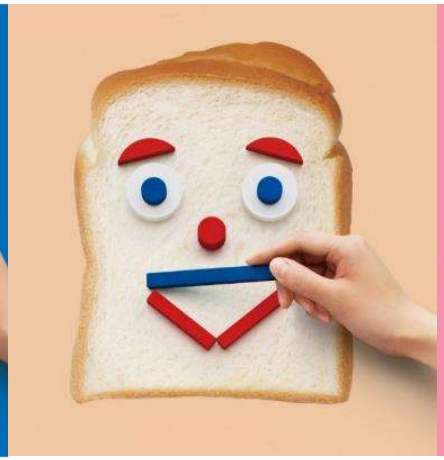


クルマの軽量化



先端半導体の高機能化

安心・安全なくらし



食のサステナブル実現

食料の安定供給

くらしを豊かにする素財を、幅広い分野で展開

数字で見るＡＤＥＫＡグループ

創　立

107年

時価総額

3,292億円

＊2024年3月末時点

海外売上高比率

54.2%

＊2024年3月末時点

連結子会社数

39社

＊2024年3月末時点

営業利益

354億円

＊2024年3月末時点

研究開発員

3人に1人

＊ＡＤＥＫＡ単体

事業領域

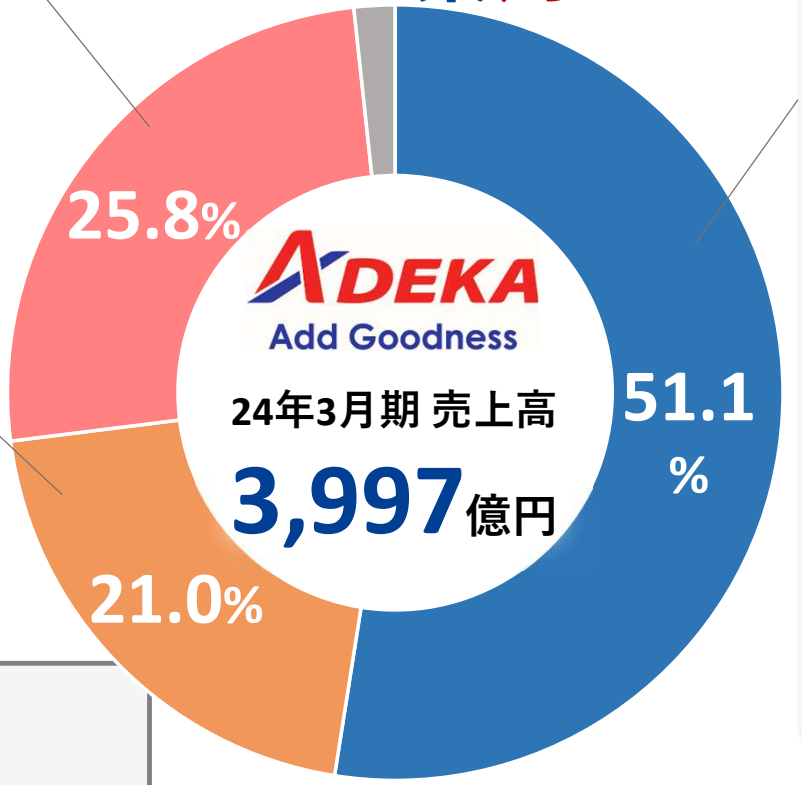
ライフサイエンス事業

食品事業

くらしを豊かにする

Add Goodness

な“素財”を提供



※組織改定（2024/7）に伴い、
「情報・電子化学品」「機能化学品」は、
2025 年 3 月期 第 2 四半期決算（2024/11）から、
それぞれ「電子材料」「環境材料」に名称変更いたします。

化学品事業

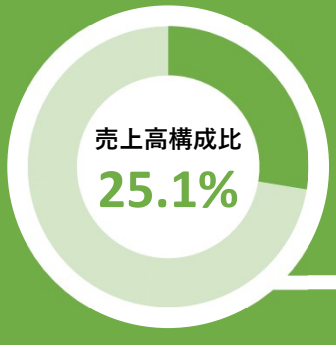
樹脂添加剤

情報・電子化学品

機能化学品

Polymer Additives

樹脂添加剤



売上高
1,004億円

営業利益
79億円

＊2024年3月末時点

樹脂に様々な機能を付与する役割

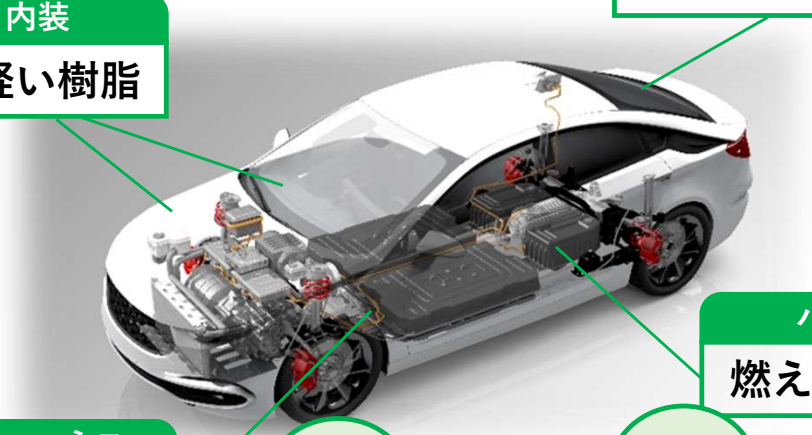
プラスチック

ポリプロピレン
塩化ビニル樹脂
ゴ　ム
エンプラ
（ポリカーボネート）
etc.

- ✓ 強　い
- ✓ 長持ち
- ✓ 加工しやすい
- ✓ 透明
- ✓ 燃えにくい

etc.

自動車



外装・内装
強くて軽い樹脂

省エネ

外装・内装
紫外線に強い樹脂

長寿命

バッテリー
燃えにくい樹脂

安全・安心

ワイヤーハーネス
熱に強い樹脂

電装化

世界の樹脂添加剤メーカー＊で、No. 2 のポジションを堅持

＊高機能添加剤分野における当社推定

Electronics and IT materials

情報・電子化学品

売上高 **390**億円

営業利益 **97**億円

* 2024年3月末時点

最先端領域

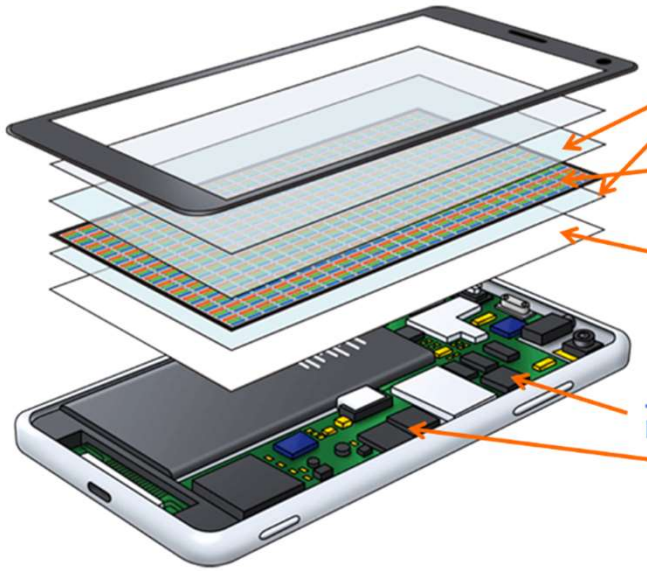
半導体

ディスプレイ

業界トップ・有力企業に
キーマテリアルを提供

スマートフォン

■ 半導体　■ ディスプレイ



《光学フィルム》
光硬化樹脂

《カラーフィルター》
重合開始剤
樹脂BM（ブラックマトリクス）

《TFTアレイ》
エッチング薬液

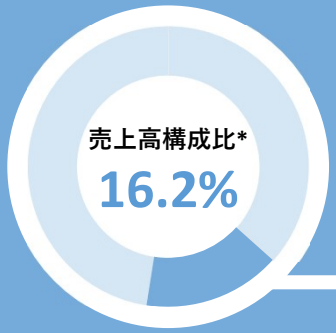
《半導体メモリ》
高誘電材料

《半導体LSI》
光酸発生剤
高誘電材料

半導体メモリ向け高誘電材料　世界シェアNo. 1

Functional chemicals

機能化学品



売上高
646億円

営業利益
59億円

* 2024年3月末時点

幅広い産業分野に人と環境にやさしい
化学品・各種薬剤を提供

トップライン製品（自動車）	エンジンオイル用潤滑油添加剤「アデカサクラルーブ」シリーズ

新車 純正オイル

交換用オイル

エンジン内部の摩擦・摩耗を低減

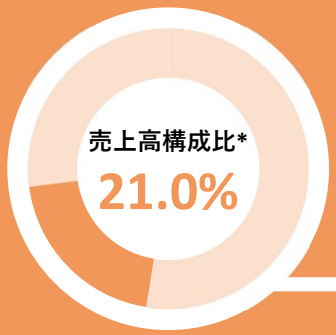
燃費がおよそ１％向上（CO_2排出低減）

潤滑油添加剤「アデカサクラルーブ」は、世界**オンリーワン**製品

Food products

食　品

おいしさと安心のベストパートナー RISU BRAND



売上高 **840**億円　営業利益 **41**億円

* 2024年3月末時点

パン・お菓子

洋菓子

ホテル・カフェ レストラン

BtoB

マーガリンに留まらず、
機能性油脂製品を創造・提供

マーガリン　ショートニング　フィリング　クリーム

高い技術力 ∞ “おいしさ”の科学的な解析

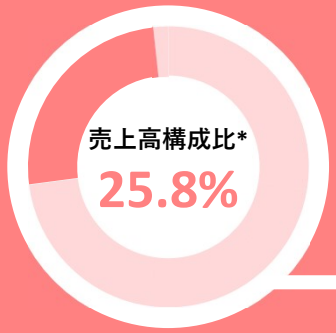
社会課題を解決

環境負荷低減	食のサステナビリティ	労働力不足解消
“おいしさ持続”で食品ロス削減	環境も 健康も 多様性も	洋菓子づくりをミスなく簡単に
●高機能マーガリン	●プラントベースフード	●生地練り込み用素材

９０年以上にわたり社会課題に貢献するフードテック企業

Life Science

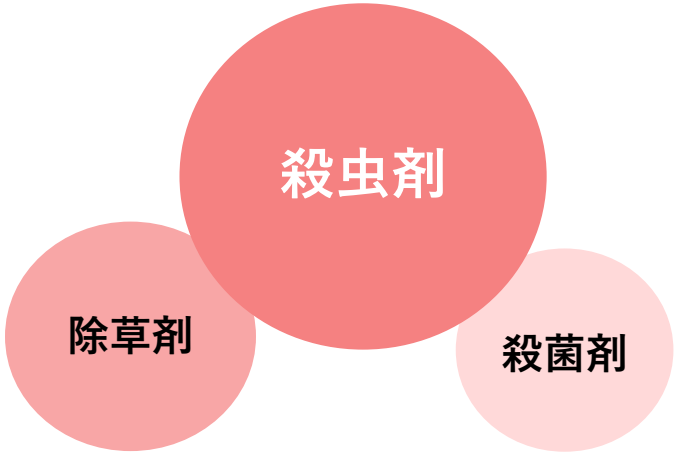
ライフサイエンス



売上高
1,030億円

営業利益
59億円

*2024年3月末時点



農薬がコア事業
（連結子会社：日本農薬）

事業の強み

研究開発力

“3年に1剤”を掲げ

実　績

新規薬剤を創出

18原体*1／過去40年

*1 病害虫等に効果を示す有効成分

＜農薬登録＞
世界100の国・地域

作物増産　品質向上

水　稲

果　樹

野　菜

etc.

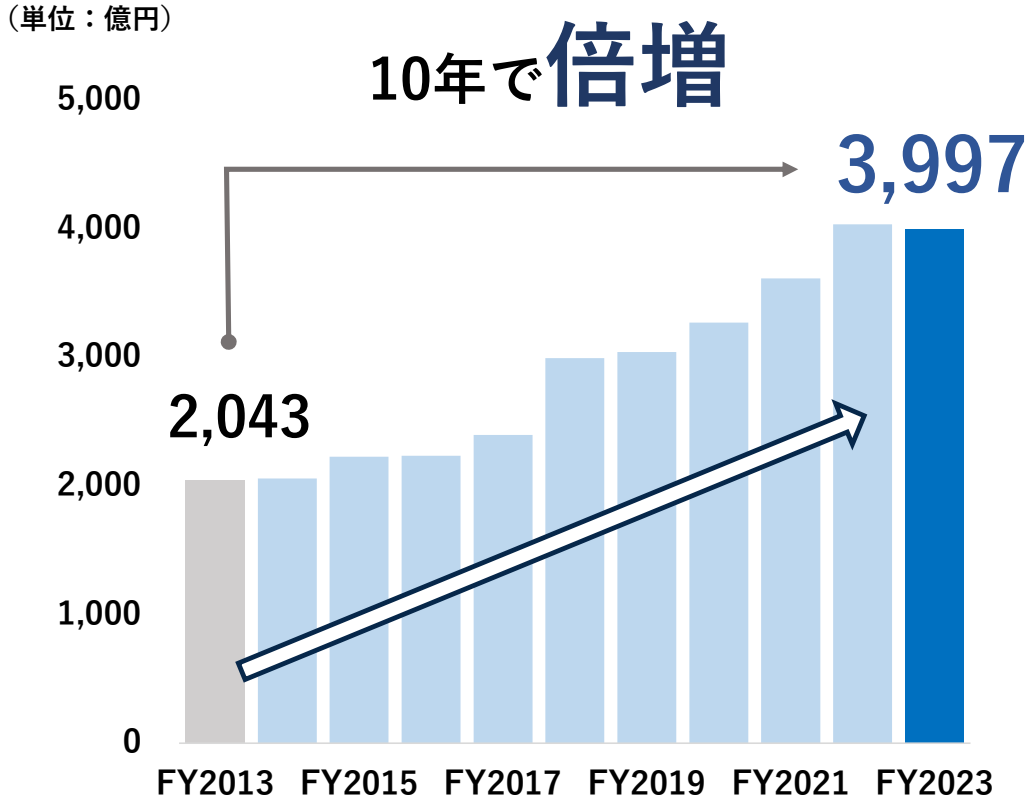
「新規薬剤の開発数*2」世界７位、日本２位

*2 Agbioinvestorおよび日本農薬株式会社『2024年3月期決算・中期経営計画説明会』資料「 新規開発薬剤数（1980年～2021年）」をもとに当社で作成

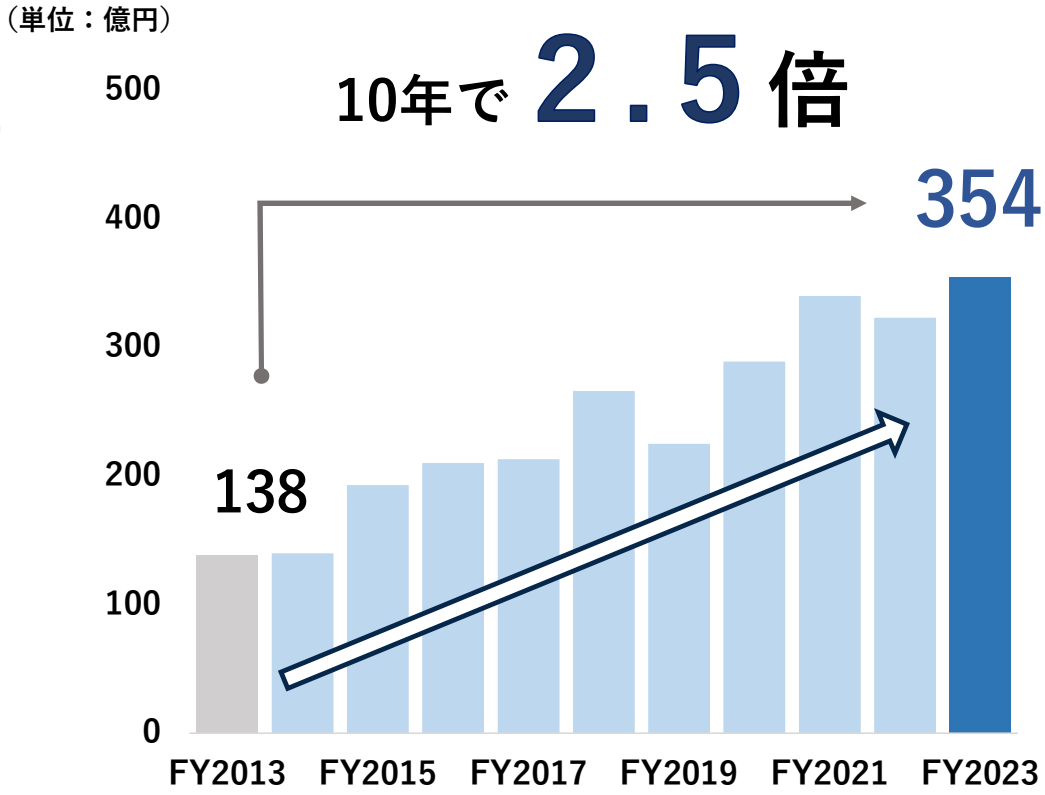
2. ＡＤＥＫＡグループの業績

売上高と営業利益の推移

売上高



営業利益



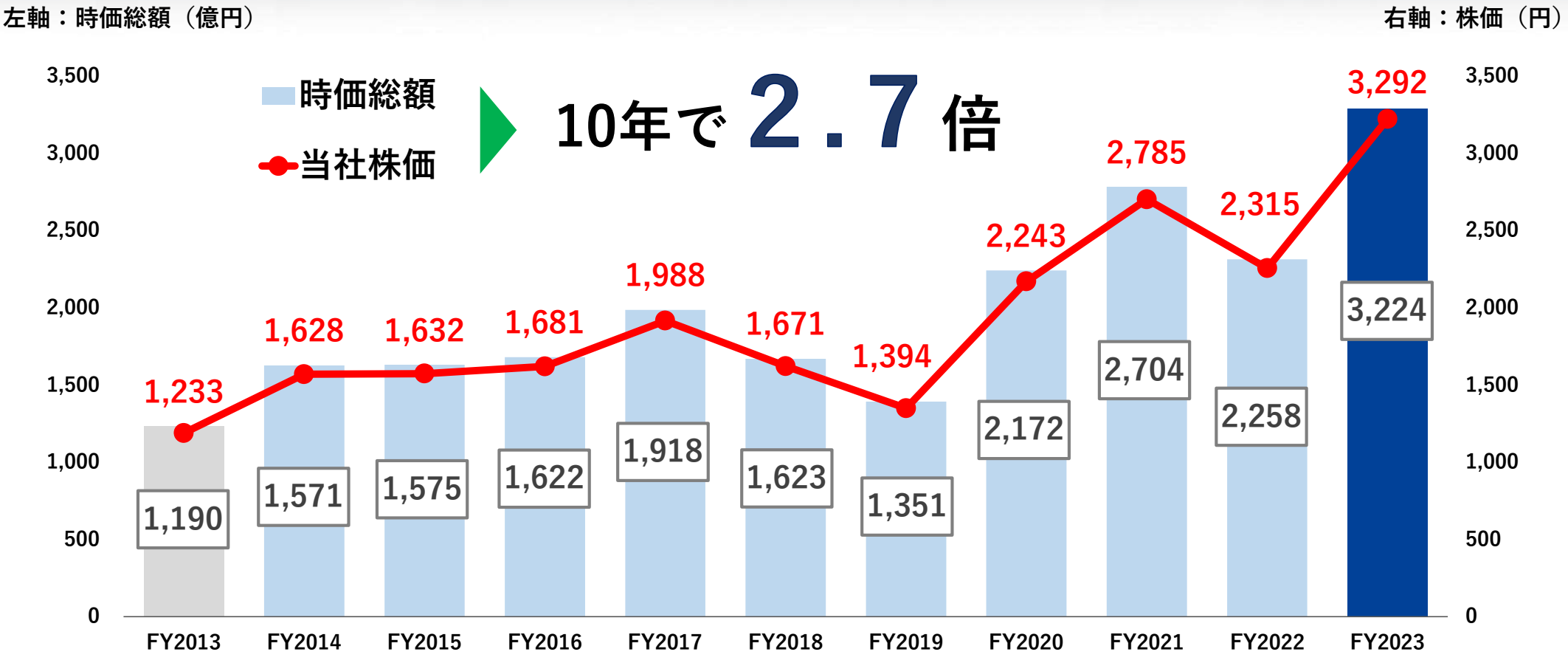
注 ）金額は億円未満を切り捨てて表示

2024年度 業績予想

（単位：億円）	FY2023 実績	FY2024 業績予想	増減額	増減率（%）
売上高	3,997	過去最高 4,260	262	6.6
営業利益	354	過去最高 392	37	10.6
経常利益	357	過去最高 384	26	7.4
親会社株主に帰属する当期純利益	229	過去最高 242	12	5.3
1株当たり配当金額	90円	90円		

注 ）金額は億円未満を切り捨てて表示

当社の時価総額と株価の推移



注）当社株価は各年度末日の終値ベース、時価総額は当社株価（年度末日・終値）×発行済株式総数

3. ＡＤＥＫＡグループの経営戦略

2024年４月からスタートした中期経営計画

ADX 2026

- ADEKA VISION 2030の実現に向けたセカンドステージ
- 利益と効率性に重点を置き、稼ぐ力を高める3年間
- 成長戦略としてサステナビリティを推進し、更なる変革を実行する3年間

ADEKA VISION 2030
～持続可能な社会と豊かなくらしに貢献する
Innovative Company～

バックキャスト

ADX 2023
社会価値 ＋ 経済価値

ADX 2026
成長戦略として
サステナビリティ推進

経営指標

財務指標（FY2026）	営業利益	530億円（売上高5,000億円）
	ＲＯＥ	11.0%
	ＲＯＩＣ	10.5%
サステナビリティ指標 *1（FY2026）	環境貢献製品売上高	1,150億円（2019年度比 2.5倍）
	ＧＨＧ排出量	199千t-CO2e（2013年度比 13%削減）*2
	女性管理職比率	6%以上（単体）
設備投資額		750億円（3カ年）
配当方針（配当性向）		40%以上維持 *3

*1 ＡＤＥＫＡグループ サステナビリティ優先課題に関する指標
*2 CO_2 equivalent（CO_2換算値）。様々な温室効果ガスの量をCO_2相当量に換算して統一的に表す単位
*3 適切な還元を総合的に勘案し、安定配当の維持を基本とする

セグメント別 業績目標

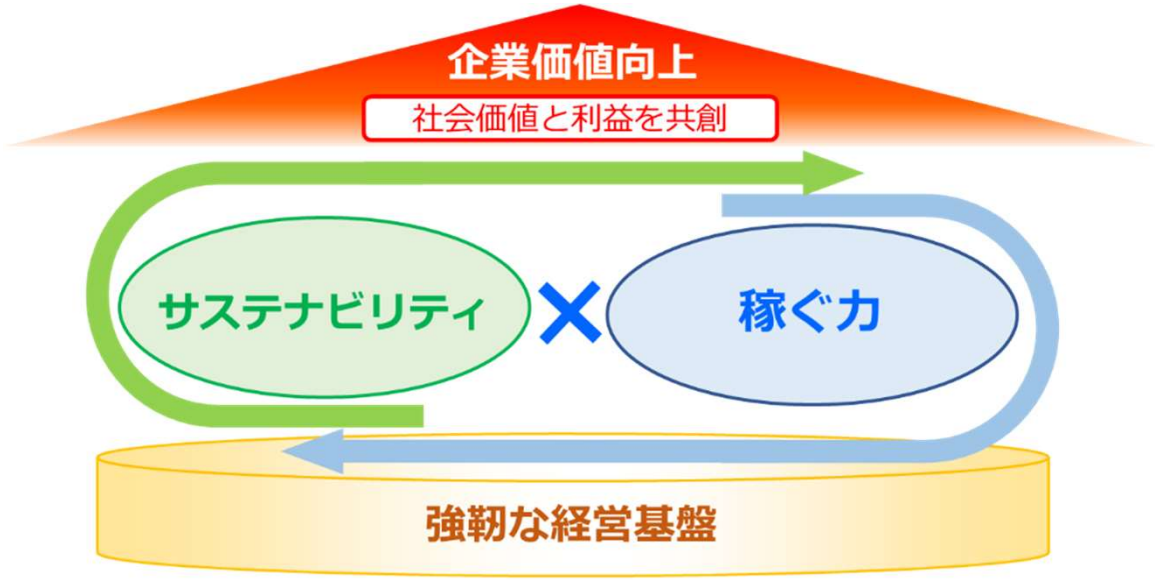
為替前提	138円／$ 149円／€					
	FY2026 計画			FY2023 実績		
	売上高	営業利益	利益率	売上高	営業利益	利益率
TOTAL	5,000	530	10.6%	3,997	354	8.9%
化学品	2,763	364	13.2%	2,041	236	11.6%
樹脂添加剤	*1,332*	*109*	*8.2%*	*1,004*	*79*	*8.0%*
情報・電子化学品	*626*	*153*	*24.4%*	*390*	*97*	*25.1%*
機能化学品	*805*	*102*	*12.7%*	*646*	*59*	*9.1%*
食品	928	62	6.7%	840	41	4.9%
ライフサイエンス	1,200	97	8.1%	1,030	59	5.7%
その他	106	5	4.7%	86	17	19.9%

注）金額は億円未満を切り捨てて表記

基本方針と基本戦略

サステナビリティの推進により、
社会価値の向上と持続的な成長を実現する

～稼ぐ力・サステナビリティ・強靭な経営基盤～



基本戦略

本日ご説明

- 稼ぐ力の強化、高収益構造への転換

本日ご説明

- 環境貢献製品の拡大、
  事業構造変革によるＧＨＧ削減
- 経営基盤の強靭化

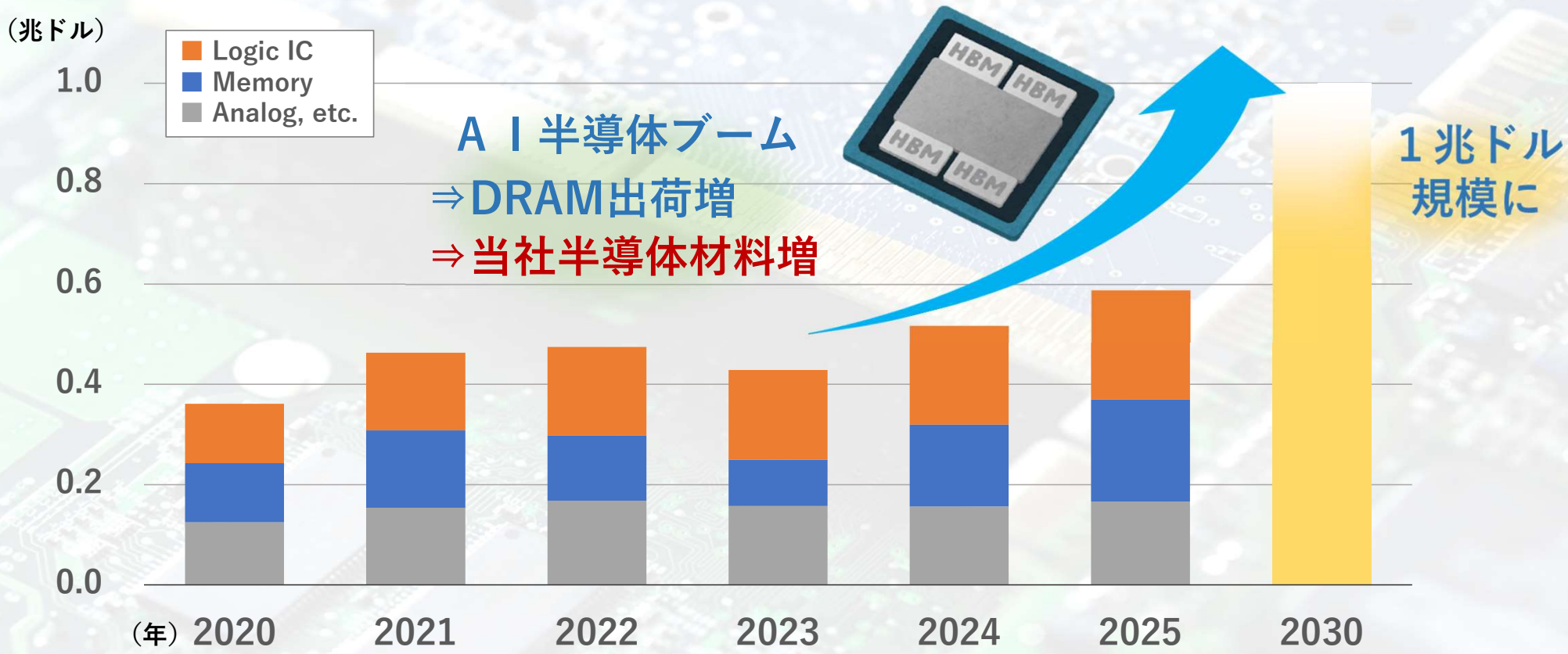
基本戦略

稼ぐ力の強化、高収益構造への転換

情報・電子材料の拡大

情報・電子材料の拡大①　半導体市場の伸長

世界の半導体市場の伸長とＡＤＥＫＡの成長率は連動

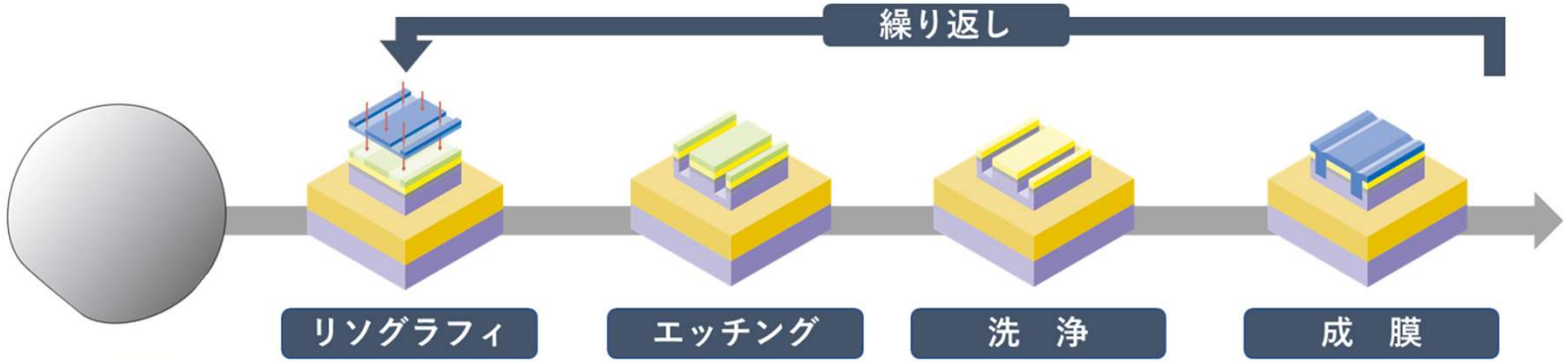


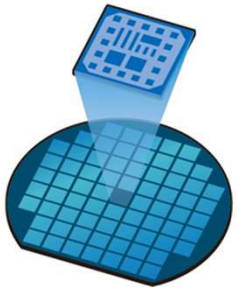
※ 出典：WSTS 2024年春季 半導体市場予測。2024年,2025年,2030年は予測値。

基本戦略「稼ぐ力の強化、高収益構造への転換」

情報・電子材料の拡大②　ＡＤＥＫＡの半導体材料

現状は「前工程」に強み





先端レジスト向け
世界シェア
No.2！

光酸発生剤

EUV、ArFなどの
紫外線波長に反応し、
微細な回路パターン
を描くための材料

高純度
エッチングガス

高純度
過酸化水素

高誘電材料

原子レベルの極めて
薄い膜を形成する
材料

世界シェア
No.1！

設　計 → 前工程 → 後工程

今中計
注力

エッチング：配線材料、高純度ガス ／ 接合：特殊エポキシ樹脂 ／ 放熱：高放熱シート
… and more

基本戦略「稼ぐ力の強化、高収益構造への転換」

情報・電子材料の拡大③　事業領域の拡大

微細化のさらなる実現に向けて

半導体の技術革新 ▶ 材料の役割が「より重要」に

材料のゲームチェンジ　構造変化

■ ＡＤＥＫＡの技術で貢献できる領域　— これまで　— これから

拡大

最先端	最先端
半導体メモリ	ロジックＩＣ
前工程	後工程

基本戦略「稼ぐ力の強化、高収益構造への転換」

情報・電子材料の拡大④　Global Topを狙うエリア戦略

3年間で **200億円以上** 投資を実行

米国市場の開拓

23年秋に開設した
オレゴン州営業所の本格稼働

▲ 富士工場
高純度過酸化水素増能

高誘電材料のシェア堅持と技術開発強化

前中計で投資した先端材料の
本格稼働と投資継続

▲ ADEKA KOREA
R&D Center
（延床面積7倍に拡充）

▲ ADEKA KOREA
矢継ぎ早に増設投資実行

▲ 千葉工場
光酸発生剤増能

▲ 久喜研究所内「新研究棟」
に前工程･後工程R&Dを集約

ロジック半導体ビジネスの構築

新プラント稼働と
次世代向け投資継続

▲ 台湾艾迪科精密化学
新プラント

最先端の研究・生産技術開発
＋国内半導体製造への対応

- 光酸発生剤の販売拡大と投資継続
- 久喜新研究棟の建設（２６年１月完工）
- 高純度過酸化水素の増能

基本戦略

環境貢献製品の拡大、
事業構造変革によるＧＨＧ削減

環境貢献製品の拡大と創出

基本戦略「環境貢献製品の拡大および、GHG削減推進による事業構造の変革」

環境貢献製品の拡大と創出①

ＡＤＥＫＡグループ
環境貢献製品

環境負荷低減

気候変動対応

資源有効利用

左のいずれかに貢献できる
当社グループの
製品・技術

社内「サステナビリティ委員会」で認定

現在 **17** 製品

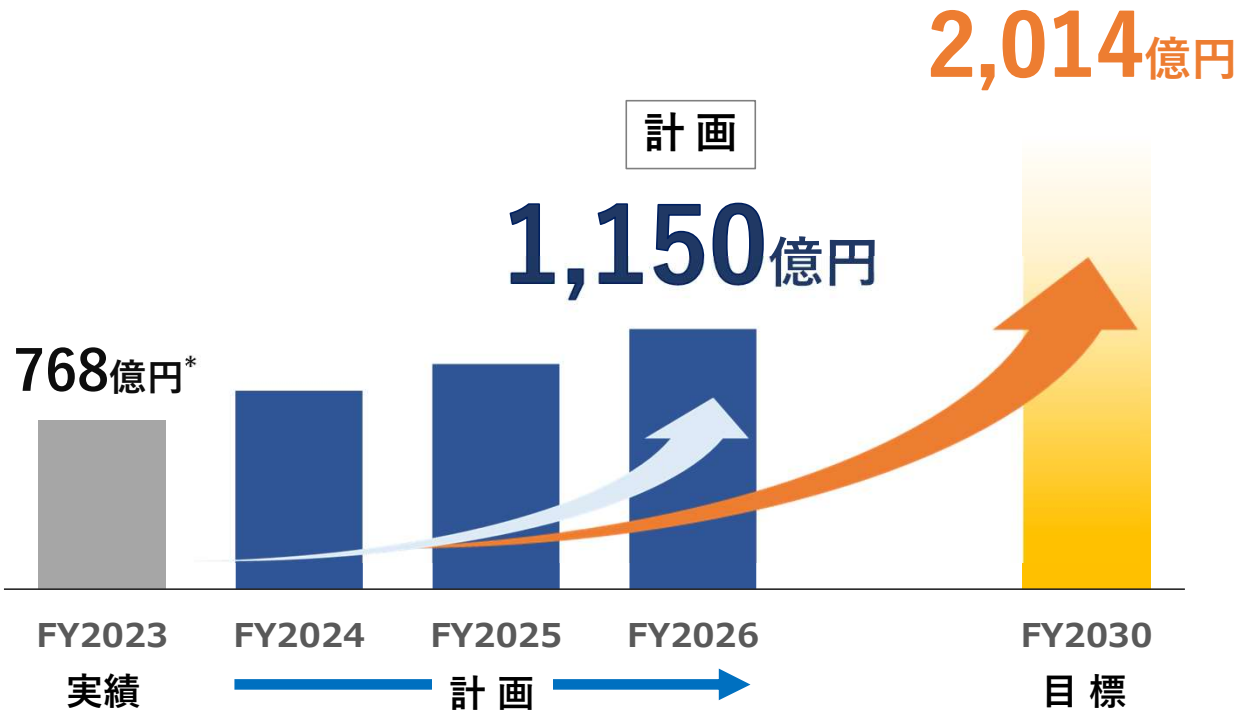
・広く社会に普及
・新たな製品創出

社会課題を解決

基本戦略「環境貢献製品の拡大および、GHG削減推進による事業構造の変革」

環境貢献製品の拡大と創出②

ADX 2026（最終年度）
環境貢献製品売上高



* FY2023実績は、環境貢献製品の見直し（追加）を適用後の数値を記載
* 金額は億円未満を切り捨てて表記

『ADX 2026』環境貢献製品

- 脱重金属用安定剤
- 自動車部材用核剤
- イントメッセント系難燃剤
- 環境対応型樹脂添加剤（リサイクル樹脂用添加剤 等） NEW

樹脂添加剤

- ＵＶ硬化材料
- 回路形成用リサイクル材料
- 半導体用ＡＬＤ材料 NEW
- 半導体周辺材料 NEW

情報・電子

- 水系塗料材料
- 接着材料
- 摩擦低減潤滑材料
- SOx低減対応材料

機能化学品

- RSPO等認定製品
- 食品ロス対応製品

食　品

- プラントベースフード製品
- 水稲用箱処理剤 NEW

ライフサイエンス

- 電池材料

その他

本日ご説明

サステナブルな食生活の実現

おいしさと社会価値双方を追求してきたフードテック企業として、
プラントベースフードのグローバル展開を加速

サステナブル

食の多様性　労働力不足

味の工夫

インバウンド

様々な要因が
プラントベースフード
普及拡大の障壁に

新技術の創出

ReTERA 技術

動物性食品のおいしさを再構築
プラントベースで再現

2022年

業務用プラントベースフード

Deli-PLANTS

シリーズを上市

環境貢献製品

プラントベースフード「デリプランツ」シリーズ

Deli-PLANTS

etc.

おいしさ ＋ 使いやすさ

高い市場評価

日本での普及拡大に取り組むと同時に、

「海外での市場開拓」

「パートナーシップの構築」を加速

アプローチ強化

HoReCa*市場（ホレカ）

- インバウンド需要（ビジネスチャンス）
- 具体的なシーンを想定した、活用メニューを拡充

流通業界

- プラットフォームへの関与・参画
- サステナブル催事への積極提案、独自開催

* HoReCa：ホテル、レストラン、カフェなど食品サービス業界

カーボンニュートラル実現に資する新規事業の創出

低炭素かつ持続可能な社会の実現に向けて、
当社独自の材料で次世代／革新二次電池の早期実用化に挑戦

二次電池

現在はリチウムイオン二次電池が普及

軽量化・小型化

安全性の向上

長寿命

充放電性能の向上

脱レアメタル

性能向上 ＋
新しい材料・プロセスの適用

新技術の創出

エスパン
ＳＰＡＮ
（次世代二次電池用活物質）

▲ＳＰＡＮの外観

入手しやすい
硫黄＋繊維原料

SPANを正極に用いたセルは、
寿命と軽さのバランスに優れ、
電池の高性能化を可能に

2018～

コーポレート研究
（開発、製法・量産化検討）

2024年

事業に組入れ

環境材料本部

電池材料研究所

早期事業化へ

環境貢献製品

次世代二次電池用活物質 「ＳＰＡＮ」（エスパン）

当社独自テストセルでＳＰＡＮの充放電を評価

世界最軽量セルの実証に成功

重量エネルギー密度が
現行ＬｉＢの
約３倍

現行ＬｉＢの
約1/3の重量

マイクロドローンのフライト実証に成功

軽い電池が必要な航空分野での実用化を目指す

航空分野での実用化を目指すのみならず、

これまでにない「軽さ」で二次電池の可能性を広げる

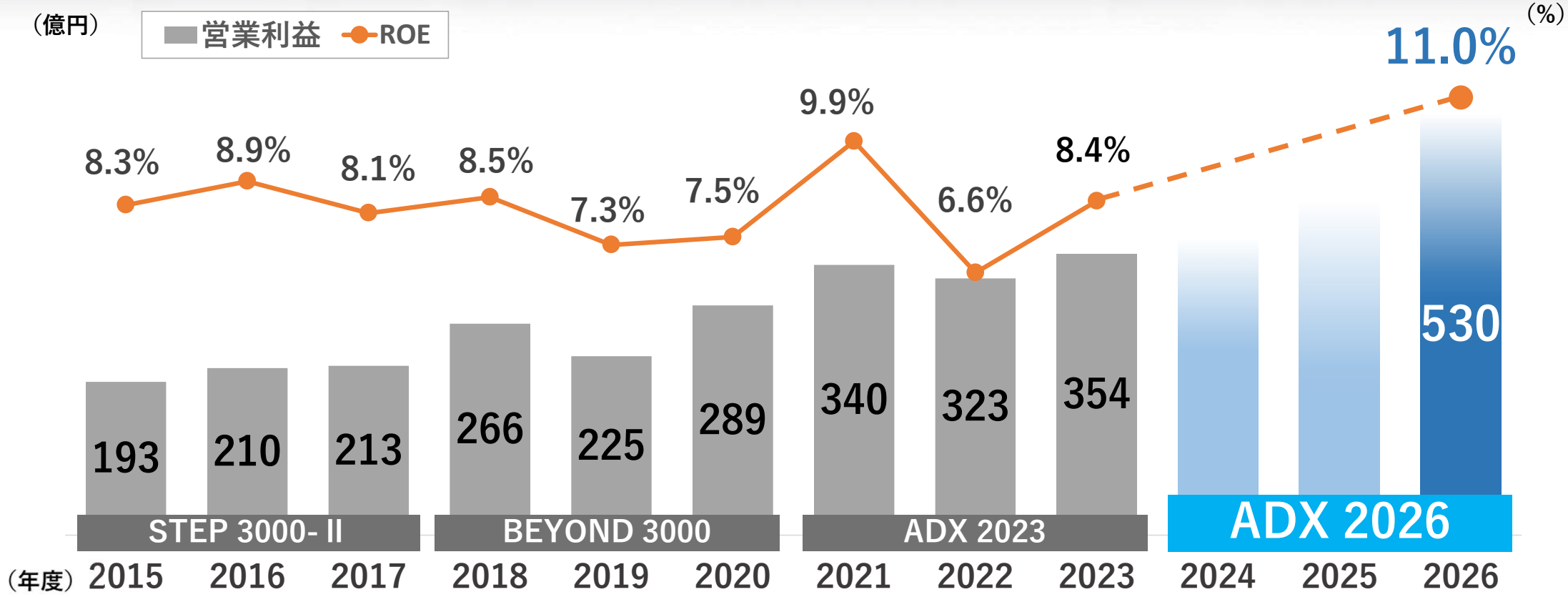
例えば、

災害時非常電池	次世代ＥＶ	用途拡張
ポータブル化の促進	航続距離の延伸	多様な設置形態・場所

**素材メーカーのＡＤＥＫＡが新しいプラットフォームを創造し、
「豊か」で「便利」かつ「持続可能」な社会の実現に貢献する**

4. 株主還元

ＡＤＥＫＡは『ADX 2026』で持続的成長を実現します



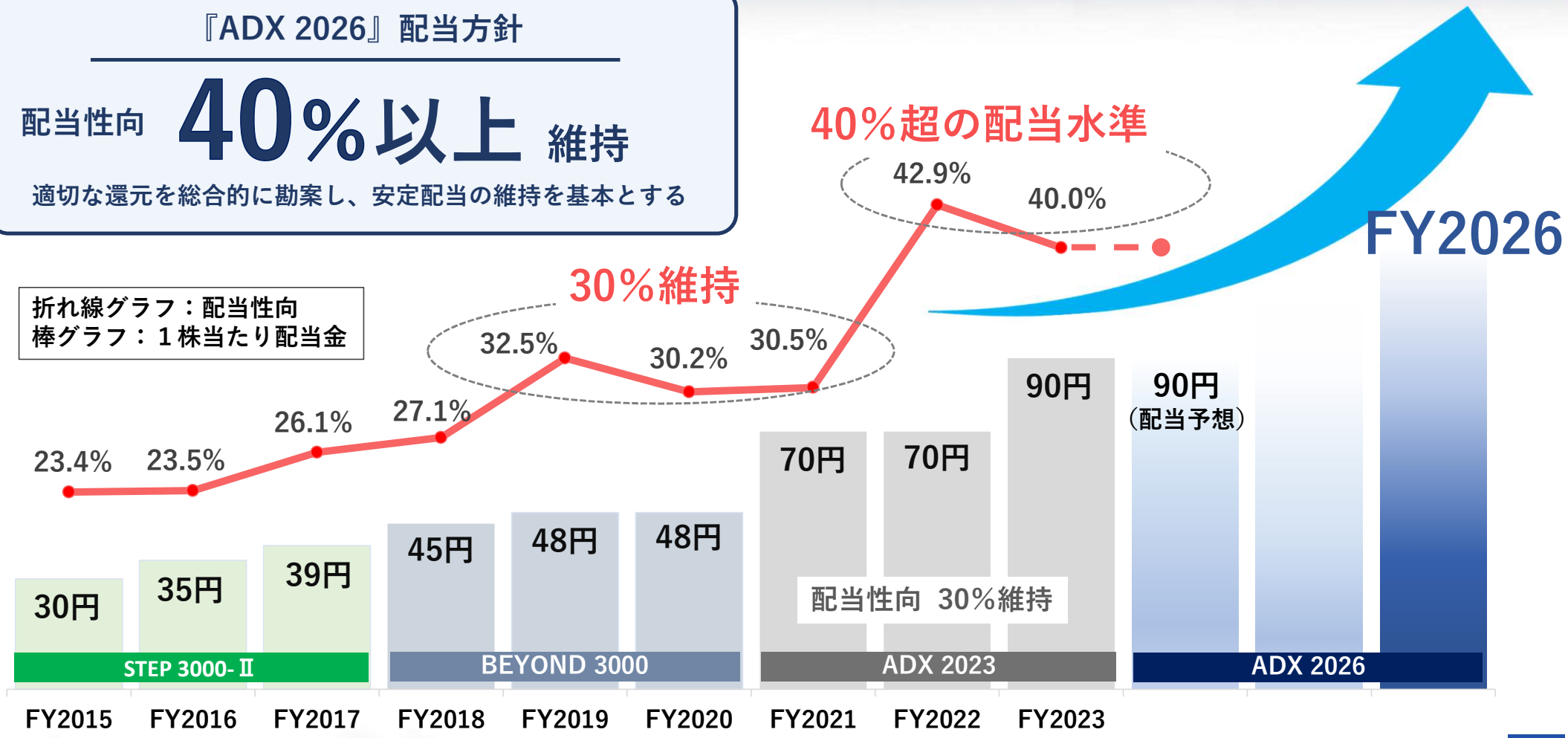
売上高	2,227	2,234	2,396	2,993	3,041	3,270	3,612	4,033	3,997	・・・・		5,000

配当方針

『ADX 2026』配当方針

配当性向 **40%以上** 維持

適切な還元を総合的に勘案し、安定配当の維持を基本とする



ＡＤＥＫＡについて、詳しくはこちらから！

投資家情報
（当社ＩＲサイト）

地味だけど、すごい。
素財のアデカ

公式チャンネル

ADEKA

Add Goodness

ご参考

2024年度 第１四半期 業績サマリー

（単位：億円）	2023年度 第１四半期	2024年度 第１四半期	増減額	増減率（%）
売上高	945	981	35	3.8
営業利益	74	86	12	17.1
経常利益	81	97	15	19.4
親会社株主に帰属する 四半期利益	51	68	17	33.2
1株当たり 四半期純利益	50.0円	66.8円	16.8円	

注）金額は億円未満を切捨てて表示

ＡＤＥＫＡグループ「サステナビリティ優先課題」

『ADEKA VISION 2030』の実現に向けて、サステナビリティ優先課題「2030年ＫＰＩ」を見直し

	サステナビリティ優先課題	2030年 KPI		
E	地球環境の保全	オールADEKAでアイデアを結集し、2050年：カーボンニュートラルを目指す （2030年：2013年度比46%削減（Scope 1 + 2）） 「環境貢献製品」売上高：2019年度比3倍に拡大		
E	環境貢献製品の提供			
S	社会の期待に応える価値創出	「ADEKA Innovative Value（AIV）」認定件数：2019年度比倍増		
S	ステークホルダーとの対話	ステークホルダーとの健全な関係の維持向上		
S	人権の尊重	人権に関する取組みの高度化 （人権デュー・ディリジェンスの推進／苦情処理メカニズムの構築・運用／人権教育・啓発活動の推進）		
S	人財活躍の機会拡大	DE&Iの推進	管理職の多様性確保の推進	• 女性管理職比率: 10%* • 外国人・経験者採用管理職比率：各々の従業員比率と同等*
S			風土醸成	従業員エンゲージメントの向上*
S		健康経営の推進	「健康経営優良法人(ホワイト500)」認定取得 (ADEKAグループ(国内))	
G	グループガバナンス・リスクマネジメントの強化	• グローバルで「ＡＤＥＫＡグループ行動憲章」の浸透を図る • グループ全体の平時／有事のリスクマネジメント体制の構築・運用		

＊ＡＤＥＫＡ単体

環境：地球環境の保全

カーボンニュートラルに向けたＧＨＧ排出量削減

ロードマップ

オールＡＤＥＫＡでアイデアを結集し、

2050年：**カーボンニュートラル** を目指す

2030年： 2013年度比 **46%**削減 (Scope 1+2)

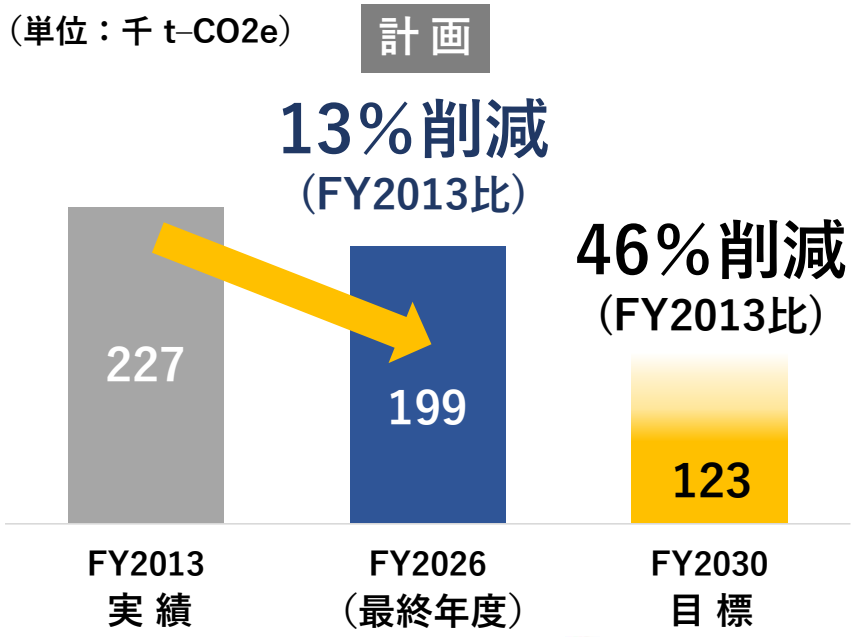
ＧＨＧ排出量

ADX 2026（最終年度）

計 画

199千t-CO2e

(2013年度比 13%削減)



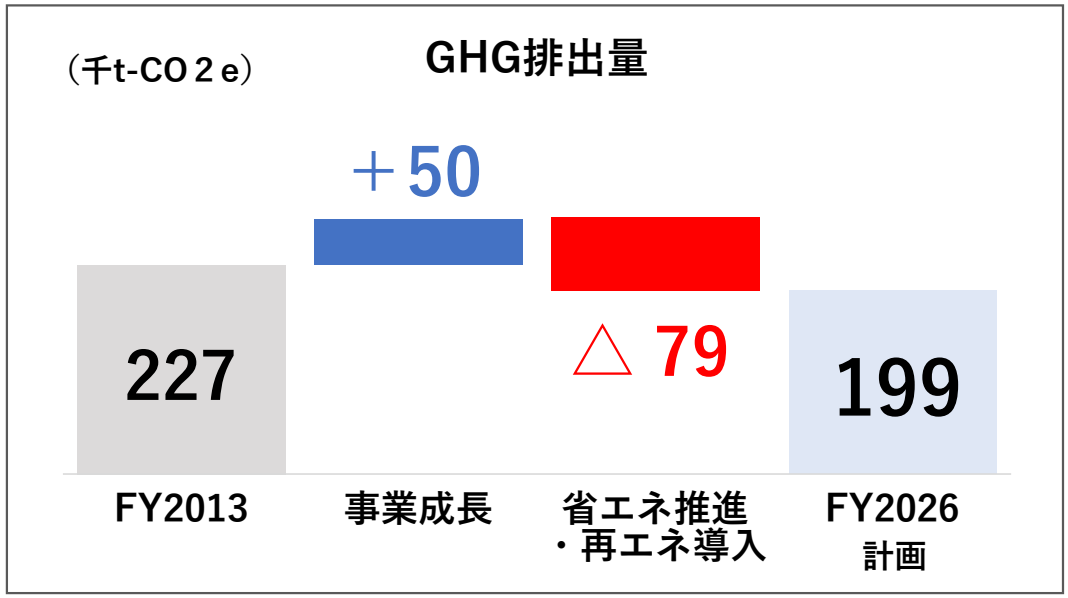
ADEKA Add Goodness

環境：地球環境の保全

カーボンニュートラルに向けた推進戦略

ＧＨＧ[*1]削減

製品構成見直し	エネルギー原単位の削減	環境貢献技術の開発	再生可能エネルギーの導入



● 省エネ推進の主なアクションプラン

機能化学品

重油からＬＮＧへの
燃料転換（相馬工場等）

▲ 相馬工場（アデカサクラルーブ等）

樹脂添加剤

製品ミックスの最適化

食　品

生産工程の最適化

■　ＧＨＧ排出量の可視化を推進（ＧＨＧ管理精度向上、ＣＦＰ[*2]算定、ＩＣＰ[*3]導入）
■　カーボンニュートラル関連の投資実行（３カ年合計：86億円）

*1 GHG：温室効果ガス　*2 CFP：カーボンフットプリント（製品・サービスに係る温室効果ガス排出量を二酸化炭素量に換算し表示するもの）
*3 ＩＣＰ：インターナルカーボンプライシング（企業内部で独自に炭素に対し価格を付け、低炭素投資・対策を推進するため使用する仕組み）

社会：人権の尊重

人権に関する取組みの高度化

グループ全体で人権リスク低減に取り組み、サプライチェーンにおける人権を尊重する

人権方針の策定 ▶ 人権デュー・ディリジェンスの推進 ▶ 救済・是正

ADX 2023

ＡＤＥＫＡグループ人権方針
2022年2月策定

ADX 2026

①人権影響評価

②負の影響の防止・軽減策の実行

③モニタリング

④情報開示

⑤苦情処理メカニズムの構築・運用

人権に関する苦情処理の仕組みをグローバルで構築
（JaCER「対話救済プラットフォーム」活用）

従業員に対する人権教育・啓発活動の推進

社会：人財活躍の機会拡大

ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョンの推進

DE&I*の推進

多様性を受け入れ、能力発揮における公平性を確保することで、自社の成長に活かす

*ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン

プロジェクト発足 ▶ **多様な人財の活躍機会拡大**

ADX 2023

DE&Iプロジェクト
９つの施策策定・実行
（2022年）

ADX 2026

2026年 女性管理職比率 6%以上* を目指す

- ✓ ＤＥ＆Ｉの理解浸透・風土醸成
- ✓ 職群固有の課題への対応
- ✓ 公平性を確保する施策の推進
- ✓ セルフ・キャリアプランの構築と推進

＊ＡＤＥＫＡ単独

	FY2023	FY2026 計画	FY2030 目標
全　社	5.4%	6%	10%

女性活躍推進を軸にグループ全体へ拡大、多様な属性を活かす施策を促進

ガバナンス：グループガバナンス・リスクマネジメントの強化

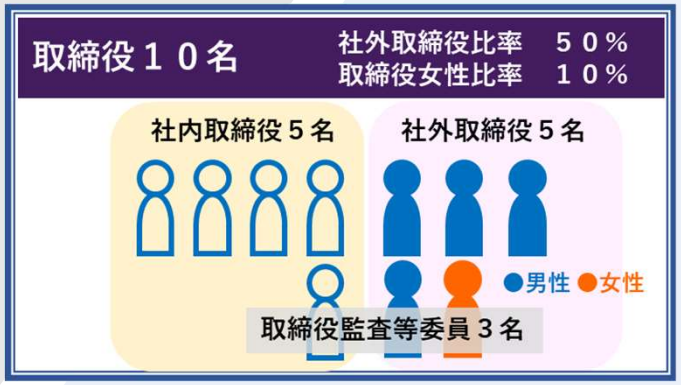
コーポレートガバナンス

実効性のあるコーポレートガバナンスを構築し、強靭な経営基盤のもと迅速・果断な意思決定を行う

経営体制の変革 ▶ **コーポレート・ガバナンスの高度化**

ADX 2023

- 委任型執行役員制度を導入
- 指名・報酬委員会委員長を独立社外取締役へ
- 非財務指標を用いた役員報酬制度を導入



ADX 2026

① 取締役会の機能強化と実効性向上

② 株主との対話を推進

③ 社外取締役の機能強化

サステナビリティや企業戦略等、
経営の大きな方向性に関する議論を充実させ、企業価値の向上を目指す

業績予測・事業計画に関する注意事項

この資料に記載されている業績予想、事業計画は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び種々の前提に基づき作成したものであり、
実際の結果は今後生ずる様々な要因によって、予想、計画と異なる場合があります。